

毎度ながらの挨拶ですが、どうも刹那です。

今回のテーマは「秋～さみしさ～」とのことなので何の本にするか悩みました。

紹介する作品は

米澤穂信 『さよなら妖精』です。

あらすじ

1991年、高校生の守屋路行は、雨宿りをしていた異国の少女マーヤと出会う。ユーゴスラビアから来た彼女は、すぐに彼と彼の友人たちと打ち解けると、日常的な不思議があることに「哲学的意味がありますか？」と守屋に問い掛けては推理を求める。やがて彼女はユーゴスラビアに帰り、そして守屋は最大の謎解きに立ち向かうことになる…。

この作品は2005年版『このミステリーがすごい』にて国内部門で20位を獲得したものです。当時、ほとんど無名に近かった米澤さんはこれをきっかけに世に名を広めることとなりました。

自分は米澤さんの作品で最初に読んだ本がこの『さよなら妖精』でした。この作品から「古典部」、「小市民」シリーズを読み始めました。なぜ、『氷菓』で人気が出なかったかが不思議です。日常の謎を題材にしている青春ミステリーは読んでいて心が癒されます。あんまり、がつつりした推理ものでもないので普段あまり本を読まない方にもお勧めの作品です。

今回の本とは関係ないのですが米澤さんの『インシテミル』という作品が、『インシテミル 7日間のデス・ゲーム』として映画化されます。急に関係のないことを告知してすいません。この作品も面白いので小説を読んでから映画を見るとより面白くなると思います。

もう今年度も半分が過ぎました。時が過ぎ去るのは早いですね。今年の夏はサークルで旅行などにも行ったので充実しました。本屋サークルは年がら年中人を募集しているので興味があれば一度サークルの活動に顔を出してください。

毎度毎度の駄文、最後までお付き合いしていただきまして誠にありがとうございます。

三回 理工学部 刹那